

【NEWS RELEASE】

2019年3月29日

各 位

株式会社三井住友銀行

国立大学法人東京大学に対する「ESG/SDGs評価」に基づく
シンジケート・ローンを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、国立大学法人東京大学（総長：五神 真）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくシンジケート・ローンを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役：瀧崎 正弘）と弊行が作成した基準に基づき、国立大学法人東京大学に対して行った「ESG/SDGs評価」の趣旨に賛同頂いた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりました、国立大学法人東京大学の取組に対する評価結果は、環境側面（E）・社会側面（S）及びガバナンス側面（G）において、ESGおよびSDGs達成に向けた良好な取組と情報開示を実施されているとの評価になりました。

特に、ESG及びSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

- E：東京大学環境理念の中で、環境に関する科学・技術の進歩への貢献や、環境関連の法令・基準の順守、環境負荷の軽減、などを基本方針として掲げられていること。また、2008年に立ち上げた東大サステナブルキャンパスプロジェクト（TSCP）では、実験系を除く省エネ目標を達成、自然エネルギーによる創エネにも取り組まれていること。さらに、2015年にはTSCP学生委員会が設立され、学生も巻き込み、教育と取組の相乗効果が表れていること。
- S：大学と産業界とが経済社会のビジョンを構築・共有して課題解決に共に取り組む「産学協創」を進められていること。また、地域との連携の下、世界的視野を踏まえつつ地域の課題を住民とともに解決する取組を全国的に実践されていることなど、産業界・地域と連携し積極的に社会的課題の解決に取り組まれていること。
- G：指定国立大学法人構想調書の中で、地球と人類社会の未来に貢献するために、その方向性が合致するSDGsを活用することが明記されており、総長をリーダーとする全学体制「未来社会協創推進本部」を設置し取り組まれていること。
- SDGs：地球と人類社会の未来への貢献に向けて、SDGsを活用する方針を立てられていること。また、登録プロジェクトの仕組みを通じて、SDGsの17目標に関連する研究や活動の可視化と情報開示が行われていること。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs評価シンジケーション」のESG評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

以 上

【シンジケート・ローンの概要】

アレンジャー：株式会社三井住友銀行
 エージェント：株式会社三井住友銀行
 組成金額：27.8億円
 貸出人：朝日信用金庫

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。